

第1回安来市公立幼児教育・保育施設のあり方検討委員会 議事録

○日時 令和8年 7 月 16 日(木) 午後2時00分～3時30分

○場所 安来庁舎 201 会議室

○出席者等

(委 員)余村 望、樋野 義之、細田 浩、上田 恵美、門脇 純一(欠席)、
遠藤 健志、角 陽子、越野 亘、山根 幸夫

(事務局)子ども未来課長 加藤 直子 子ども未来課係長 山本 浩志
子ども未来課係長 高木 佳奈子 子ども未来課主幹 奈良井 ゆかり

(傍聴者)2 名

○次第

1. 健康福祉部長あいさつ
2. 安来市公立幼児教育・保育施設のあり方検討委員会について
3. 委員長、副委員長の選出
4. 市の幼児教育・保育の現状について……………資料1 資料2 資料3
5. 今後のスケジュールについて……………資料4
6. 意見交換

○内容

1. 健康福祉部長あいさつ

本市では令和 7 年度の出生数は 143 人と10年前に比べて半減しており、保育施設の入所者も急激に減っている。一方で、保育ニーズの多様化や施設の老朽化への対応、保育人材の確保など、保育を取り巻く環境は大きく変化している。

こうした状況を踏まえて、将来にわたり質の高い教育保育を安定して提供していくため、公立幼児教育保育施設の再編について検討を進めることとした。

再編が目的ではなく、子どもたちにとってより良い保育環境を確保し、限られた人材や施設を有効に活用しながら将来にわたって持続可能な保育体制を築いていくことが目的である。

本日は現状や課題を共有するとともに、委員の皆様それぞれの立場から率直なご意見をいただき、今後の検討につなげていきたいと考えている。皆様へのお力添えをお願い申し上げます。

委員、事務局自己紹介

2. 安来市公立幼児教育・保育施設のあり方検討委員会について

「安来市公立幼児教育・保育施設のあり方検討委員会設置要綱」により事務局より説明

3. 委員長、副委員長の選出

立候補を募るが、立候補者なし。事務局の推薦により選出。

委員長：余村委員

副委員長：上田委員

4. 市の幼児教育・保育の現状について

資料1、資料2、資料3により事務局より説明

Ⅳ.安来市の課題と方向性(案)は方向性検討にあたり、事務局で要点をまとめたものである。これについて意見を伺い、まとめたものを次回の基本的考え方等の素案として提示し、検討をお願いしたい。

【質疑】

(委員)

外国の子どもが増加している。企業の進出で更に増加することが見込まれている。先日、安来幼稚園の子どもたちが交流センターに訪れた際に、先生が3人、子どもが9人だったが、外国籍の子があっちへ行ったりこっちへ行ったりするので1人の先生は1人の子どもを抱えて、もう1人の先生も別の子に寄り添っていたりして、1人の先生で残りの子どもを見ていた。9名といえども手がかかるなという印象を受けた。予算の関係もあると思うが、小学校には支援員がいるので、保育士だけではなくそういった方の配置も将来的に考えていかなければと思っている。

(事務局)

現在、公立施設で育ちサポーター保育士という名前で配置している。ただ、書類を提出してもらって委員が選考して配置しており、外国の方が急に入所されたため配置できていない。状況はこちらも聞いている。制度としては一応あるので検討していきたい。

(委員)

資料の16ページについて、公立私立の保育施設の運営費についての説明資料があるが、1人当たりの経費が非常に公立の方が高くなっている。内訳について教えてほしい。これは市としてかかっている経費か。

(事務局)

内訳は主に人件費となっている。公立の内訳は主に人件費。また、参考値ではあるが公立は交付税が1人あたり150万円くらい、全体で3億から4億円収入として入ってきているため、実際の1人あたり経費はもう少し下がる。本資料は市の負担している経費を載せている。

(委員)

現場の人材確保については、どんな現状なのか。現場感覚での困り感などをお聞かせいただきたい。

(事務局)

保育施設でも人材不足は顕著になっている。延長保育や土曜日保育など、子どもの人数が少ない時でも保育士は2人以上必要になってきたり、先ほどのサポーター保育士や外国人対応などもあり人材が確保できないというのが現状である。私立施設でも採用募集をしても人が来ないという話も聞いている。保育士以外の人を雇用して保育士の仕事を軽減するような補助も行っている。

(委員)

私立も不足している。学生も少なくなっていて、職員が少なくなっている。実習生に声をかけたりしている。今幼稚園が少なくなっている現状の中で、幼稚園教諭の免許を取りたい人は幼稚園か幼保連携型の子ども園でしか実習ができない。該当する園では実習ができるので実習生が来るが、そこに来る学生も少ない。

資格を取っても実際保育士の職につかない方も多かったり、保育士になってもなかなか続かないという現状があり、大変不足している。市の方で保育補助や県からの派遣助成によって賄えたこともあるが、実際現場は不足している。

(委員)

サポーター保育士の配置にあたって対象児童の保護者の同意が必要なのか。保護者が子どもの発達特性を受け入れにくく、同意が得られず保育士の配置が難しいというようなことはないのか。

(事務局)

サポーター保育士の配置は保護者の同意を必須にしている。発達特性については成長につれてだんだんわかってくるので、医師や発達支援の施設などを紹介したりしながらご理解いただいている。

(委員)

今まで保護者の同意が得られなかったことはない。保護者の方には月1回程度面談をしたり、日々の保育所での様子を伝えたりして、お子さんが困っているというところで話をしたりしながら、まず市の発達相談会に繋げていく。

園からも一緒に出かけてドクターや心理士などの相談を受けながら寄り添っていくことを大事にしている。

(委員)

広瀬小学校は、来年度布部小学校との再編を目前に控えていて、今年は交流学習をしている。今の布部小学校の子どもたちは、認定こども園布部が休園後なので、実際には広瀬の保育施設に通っていた。そのため統合するときにも顔見知りの子どもたちなのでシームレスな繋ぎができると思っているが、布部の保護者さんたちは遠方まで子どもを送ったり迎えに来たりしている。

方向性の要点に保護者の利便性という項目があるが、実際ほかの地区でも遠方への送迎があるのではないかと。現状についてお聞かせいただきたい。

(事務局)

保育施設の場合は基本的に車での送迎になり、保護者の職場の近くの施設を利用されることが多いため、遠方への送迎はあるのではないかと思います。ただ、これから施設を再編していく中で、例えば、比田から広瀬に送迎するというようなことがあるかもしれない。実情を踏まえて今後検討していきたい。

(委員)

施設の老朽化について、築40年以上の施設があるが、統廃合となった場合に老朽化している施設は除かれるのか、老朽化したものを耐震工事などをしながら残していくのかという判断をしていくということになるのか。

交流センターも古いが、耐震化や修繕などなかなか進まない。これから再編計画の中で、修繕がどうなるのか心配である。

(事務局)

施設の老朽化は委員のおっしゃるとおりで、軒並みどの施設も古い状況になってきている。そういった修繕などのことも含めて早いところで、再編計画を決定することによって、今後どここの施設に特に力を入れていくかということも考えていかなければならないと思っている。

各施設について、地震の耐震化は完全に終わっており、建物は古いが耐震性はある。子どもの安心安全については古い施設優先で修繕しており、現状、施設の安全は保たれていると考えている。

(委員長)

要点整理の中で「地域」という言葉がたくさん出てきている。この「地域」のイメージは、再編後の新たな公立施設の区域なのか、現在園がある地域の活性化を維持しながらというイメージなのか。

また、今日の資料では令和8年度のデータが最新として出ているが、実際には将来の人口推計も出されていると思う。もし施設を統合して建て替えとなれば、向こう40年あるいは50年を睨んだ事業になる。そのため、令和30年くらいに今のままでいくとこうなるというような資料を出してほしい。そうすれば次回現実的なイメージをもって検討できると思う。相当悲観的な資料が出るのではないか。行政の作る人口推計は悲観的にならないように配慮がされた数字が出てくるというのが一般的だが、現実的な数字を出してもらって、未来にわたって保障すべき保育・教育環境を検討していく方がいいと思う。

(事務局)

「地域」についての明確な想定はしていない。地域を何力所か回って意見を吸い上げたいと考えている。

人口推計については、次回の資料として提供する予定。

(委員長)

今後の進め方について意見はあるか。

(委員)

安来市では開園基準の人数を10人としているが、松江市では20人が基準であると聞いた。集団生活には何人ぐらいが適正なのかというところも検討する必要があると思う。年齢構成で、1つの年齢にこだわらず、3歳4歳5歳といった構成もすごく大事だとも聞いている。その辺を考えていくと大変な作業になると思うが、適正人数についても、検討していかなければならないのではないかな。

(委員長)

なぜ10人なのかという話にもなってくると思う。障がい児保育について安来市はトッパンナーでやってこられた地域で、個別の特性を理解しながら取り組みをずっと続けてきたところだと理解している。今後ただ縮小という話ではなく、安来の保育の質をどうするかという議論が本来はされないといけないと思う。

(委員)

市長に報告した後、実際政策として動き出すまでにはタイムラグがある。現状の10人ルールを残したまま動いていくのか。方向性を決めたら、人数が10人を切ったので休園とするのか、ある程度最終ゴールを見据えて、実際には地域と話し合っ

て決めるなど、ある程度柔軟性を持ってやる考えでいるのか。
今は人数という縛りだけで運営をしていると思うが、実際今後の再編の動きが見えるとまた地域の方も考えが違ってくるのではないかな。ある程度柔軟な対応も必要になるのかなと思う。

(委員)

子どものことが一番ではあるが、保育職場の職員も大事にしていかなければいけないと思っている。職員を大事にするためには、私立は経営がいつも隣り合わせにある。ある程度の定員を満たして園児を預かっていかなければ経営が成り立たない。すごく難しいところがあるので、そこが公立施設のあり方にも関わっていくと思う。私立の園はそういったことも考えていく立場にあるということも承知しておいていただきたい。

(事務局)

今後の要点の中にもうたっているが、市全体の保育を考えていく必要があると思っている。私立施設も適正に継続してもらいたい。私立施設が来年からやめますということになると公立施設も困ってしまう。皆さんでバランスをとりながら、うまく目指していけるような形で、定員もいい形で調整できるようにしたいと思っている。

先ほどタイムラグの話もあったが、人口減少は皆さんが想像している以上に急激に進んでいる。これに対応するためには早い段階で、一旦方針を出させていただきたい。その後、企業進出によって保育の子どもたちが増える可能性もあるので、そうなればまた軌道修正していけばいいのではないかと考えている。

また、仮に施設が減ったとしても現状では、定員を絞っている状況なので、臨機応変に対応していきたい。私立と公立と一緒にタッグを組んで進めていければと

思っている。

5. 今後のスケジュールについて
資料 4 により事務局より説明。

■第 1 回：本日 7 月 16 日に第 1 回検討会にて現状把握

■第 2 回：8 月 20 日
将来推計、基本的考え方の整理の資料提示
保護者・職員アンケート内容についての意見交換（資料事前配付予定）

■第 3 回：10 月（予定）
アンケート結果報告、具体的な各施設の方向性検討
その後、保護者説明会、地域での説明会を行い意見集約、素案に反映

■第 4 回：11 月（予定）
素案作成、一定の方向性を提示
その後、素案を子ども子育て会議へ報告、意見集約
12 月市議会報告

■第 5 回：3 月（予定）
方向性決定、最終とりまとめ
3 月市長報告

6. 意見交換
意見なし

次回開催予定：令和 8 年 8 月 20 日（木）午前 10 時 00 分
会場：安来庁舎 301 会議室